

せんだん

西部小4つのたから
大きなうたごえ 元気なあいさつ
すなおな心 つなぐ心

「準備8割 本番2割」

これは、8日1時間目に行った高学年だけでの入学式練習時に子ども達に伝えた言葉です。行事のみならず、様々な時にあてはまると思っていますが、うまくいく時は、準備をしている間に感覚としてわかります。学校は行事を通して子どもを育てる場所であり、本番までの過程をとても大切にしますが、今回の入学式までの準備や練習の様子から、本番を安心して迎えられることを確信していました。

さて、準備とは何かというと、それは「人・物・心」だと思っています。まずは「人」、子ども達がそろって行事を迎えることが第一です。準備をしないで本番だけ参加では学ぶことが少なくなります。準備の段階から皆がそれに参加していることがまず大切です。

次に「物」ですが、これは当日を迎えるための道具、用具など様々にあります。これらをきちんともれなく整えておくことで当日はスムーズに事が進みます。

そして、最後の「心」。実はこれが一番難しく、ここがそろっているかどうかで成功が決まると言っても過言ではないでしょう。子ども達がどのような心構えをしているかが最も大切なのですが、それがわかるのが子ども達の「目」です。実は、この目が前日練習の時から素晴らしかったのです。澄んだ目と凛とした姿勢から、自分たちでやり遂げるといふ思いが見ている者に伝わってきました。

また、朝の掃除の際も、6年生の皆さんが最終仕上げをしてくれていました。廊下掃除を担当していた6年生が、人が傍を通り過ぎても自分の担当である廊下を黙々と雑巾で拭き上げる姿を見て、「これはいい式になる」との思いを強くしたのです。

そして迎えた本番。橋本教務の司会進行でぴりりとした式が執り行われ、厳粛な中にもどこか和やかな西部小の原点となるような式をみんなで作り上げることができました。1年生も緊張していましたが、静かに30分間の式を終えることができました。記念品贈呈式の際、前列の子ども達が立って前に行こうとする場面がありましたが、「がんばらなくっちゃという気持ちが溢れていて微笑ましかったですね。」と、式後に担任の樋口先生と話したことでした。

「準備8割本番2割」は、行事のたびに高学年の子ども達に伝えていきたいと思います。また、言われてするのではなく、自分は何をするべきかを自分で考えて行動することも合わせて指導してまいります。

これから、223名みんなで西部小をつくっていききたいと思います。応援をどうぞよろしくお願いします！！



入学式のためにお花を持ってきた皆さん、ありがとうございます。放送でも藤井先生からお礼を伝えてもらいましたが、おかげで、式場全体が明るく華やかな雰囲気になりました★



4月のめあて 【「心」が「つめ」めいじつをしよう】

自分からの挨拶は「心を開く」「相手に安心感をもたせる」「相手への信頼を示す」など、学校ではその価値を発達段階に応じて伝えていきます。

先生や大人の方々に会ったらどこでもいつでも挨拶することを習慣づけたいと思っています。ご家庭でもまず「挨拶ができる子」を目指していただけたらと考えています。自分から挨拶する子は周りから可愛がられますし、周りへの配慮ができることが多いと感じます。



